

2019年12月13日

各 位

株式会社ジャパンネット銀行

JNB 投資信託で新たに 48 本のファンド取り扱いを開始 ～購入時手数料無料のノーロードファンドのラインアップを拡充～

株式会社ジャパンネット銀行（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：田鎖智人、以下「ジャパンネット銀行」）では、2019年12月13日（金曜日）、JNB 投資信託で新たに48本の取り扱いを開始いたします。これにより、ジャパンネット銀行での総取り扱いファンド数は都市銀行・ネット銀行・新規参入銀行中 No.1（※1）の361本になります。

また、今回取り扱いを開始する48本のうち、35本が購入時手数料のかからないノーロードファンドです。

現在、ジャパンネット銀行は取り扱いファンドの拡充を図っており、今回の対応は2019年9月の新ファンド50本追加に続いてのものとなります。

新たに48本ファンド追加 取り扱いファンド数 都市銀行・ネット銀行中 No.1

新たに取り扱いを開始したファンドについて

「ひふみプラス」を運用するレオス・キャピタルワークスが新規設定する「ひふみワールド+」、業界最低水準の信託報酬を目指し続ける「eMAXIS Slim」シリーズから「eMAXIS Slim 国内リートインデックス」「eMAXIS Slim 先進国リートインデックス」など、人気シリーズの取り扱いを拡充したほか、パフォーマンスの堅調な REIT（不動産投資信託）の取り扱いも拡充、お客さまのさまざまな資金運用ニーズにお応えできるよう、ノーロードファンドを中心にさらに幅広いラインアップをご用意しました。

詳しくは「新規ファンド一覧」をご覧ください。

https://trust.jannetbank.co.jp/m/search/direct_search.php?new_fund=1

JNB 投資信託について

- ・ネット銀行ならではの低コスト設定で、購入時手数料、信託報酬を抑えて効率よく運用可能。
- ・総取り扱いファンド361本のうちの約7割が購入時手数料のかからないノーロード（※2）。
- ・つみたて NISA 対象商品も銀行 No.1（50本 ※2）。
- ・国内外の株式や債券、REIT（不動産投資信託）などに投資する人気のファンド、高分配が期待できるファンドなど、お客さまのニーズにあったファンドを厳選し、幅広く取り扱っています。

※1 投資信託（金融商品仲介業を除く）の取り扱いがある、三井住友銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 銀行、りそな銀行、埼玉りそな銀行、ソニー銀行、イオン銀行、ジャパンネット銀行で調査（ジャパンネット銀行調べ：2019年12月12日時点）。

※2 2019年12月12日現在の情報に基づく。

今後もジャパンネット銀行は、お客さまの資産運用ニーズにお応えできるよう努めてまいります。

株式会社ジャパンネット銀行登録金融機関 関東財務局長（登金）第 624 号
加入する金融商品取引業協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会

JNB 投資信託の重要事項

投資信託は預金ではありません。したがって、投資信託は預金保険の対象ではありません。投資信託には、元本保証および利回り保証のいずれもなく、元本割れが生じるリスクがあります。お取引には所定の手数料等がかかります。ご購入の際には、約款および各ファンドの「目論見書（投資信託説明書）」、目論見書と一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご確認ください。このご案内は情報の提供のみを目的としており、投資または特定の商品をお勧めするものではありません。銘柄の選定など、投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。

以上